



日本救急救命学会

# JSELS newsletter

第8号

令和5年3月1日

Japanese Society for emergency life-saving

一般社団法人日本救急救命学会 事務所 〒164-0001 東京都中野区中野2-2-3 (株)へるす出版内  
E-mail:info@jsels.jp URL:https://jsels.com

## 全国救急隊員シンポジウムにおける教育講演の機会に感謝して

2023(令和5)年1月27日、広島県広島市で開催されていた第31回全国救急隊員シンポジウムにおいて、本学会は教育講演の機会を頂戴した。シンポジウム主催者より指定されたテーマは「次世代へLink～たすきをつなぐ、先輩達からのメッセージ～」であった。

80分間という指定の中で、本学会が救急救命士(救急隊員)にお伝えしなければならない最も重要なことは何であろうか。やはり、本学会の目指すべき一丁目一番地である「救急現場学の学問構築」と「救急救命士の自律(プロフェッショナルオートノミー)」を参加者に伝えるのが使命ではないだろうかとスライドの作成にとりかかった。

幸いなことに本講演の座長は、本学会の副理事長である出雲市消防本部の竹田豊消防長である。

救急救命士の黎明期にご活躍され、そのご功績は枚挙にいとまがない。本学会の運営においても日々ご指導頂いており、講演前日も広島名物のお好み焼きの歴史と食べ方に触れながらも、本学会として伝えるべき重要なポイントを指導して頂いたところである。



(次頁につづく)

中川 貴仁  
弘前医療福祉大学短期大学部救急救命学科  
准教授



## 第31回 全国救急隊員シンポジウム

令和5年1月26日(木)27日(金)

会場：広島市文化交流会館、JMS アステールプラザ  
主催：広島市消防局、一般財団法人救急振興財団

## 会員募集中

名称 一般社団法人日本救急救命学会

設立年月日 2014年5月30日

主な活動

- ・ 学術集会の開催
- ・ 会員向けワークショップの開催
- ・ 救急救命士及び病院前救急医療に関する調査・研究、教育と普及・啓発
- ・ 会員相互の情報交換及び機関誌の刊行
- ・ 国内外における関係諸団体との交流
  - ・ 日本臨床救急医学会メディカルコントロール検討委員会への委員の派遣
  - ・ JPTEC協議会への役員の派遣
  - ・ 民間救命士統括体制認定機構への理事の派遣など

会員区分

- ①正会員本法人の目的に賛同し、所定の入会手続きにより入会した救急救命士の資格を有する個人。
- ②賛助会員本法人の目的に賛同し、事業を賛助するために、所定の入会手続きにより入会した医師、看護師などの医療職種、または救急隊員資格を有する個人。

- ③名誉会員本法人の発展に特に功労のあった者で、理事会より推薦され、評議員会の承認を得た個人。
- ④協賛会員本法人の目的に賛同し、事業を支援するために、所定の入会手続きにより入会した個人又は団体。

会員登録

入会金5,000円 年会費5,000円

(協賛会員団体50,000円/口)

会員登録は専用フォームからお申込みください。ご登録頂いたご住所に振込用紙を送付致しますので、入金金・年会費をお振り込み下さい。お振込が確認できた段階で会員登録致します。会員登録作業は月2回のため、お待たせすることがございます。また、お振込確認後の会員登録が完了した旨の連絡は致しませんので、ご了承下さいますよう、お願い申し上げます。

日本救急救命学会  
会員申し込み専用フォーム



## 全国救急隊員シンポジウムにおける教育講演の機会に感謝して

消防職員であった頃にも数多くの関連学会や地方会に出席していたが、初日はともかく2日目の朝一番のプログラムにおいて、しかも教育講演にどれほどの参加者が興味を示し、足を運んでくれるのだろうか。いや、自戒を込めて言うならば、清々しく早起きできて朝9時の開始までに席についていられる「紳士」はどれほどいるのだろうか・・・講演者席横で待機中に、運営スタッフが「会場の参加者が少ないなあ」と呟いていたのを聞き漏らすわけもなく、自分の過去を振り返り、深く後悔した次第である。しかし、講演が始まった頃から、四方八方の入口から参加者がどんどん席につくのを見て、改めてご聴講頂いた皆様に感謝を申し上げたい。詳細な人数は把握していないが、webでの聴講も多数あったとのことで、私宛にも講演終了後にSNS等でたくさんのメッセージを頂戴した。さらにはこの講演後に、本学会へ新規入会申込みも複数あったと伺い、改めてこの場をお借りして御礼を申し上げたい。

本講演の準備を進めるうえで、重要視したポイントは先に述べたとおりだが、ではそれをどう具体的に伝えるのか、この部分に腐心した。学問構築しかり自律しかり、今までなかったものを作り上げるわけで、参考書や指南書はない。逆に「これでいい」、「完成です」というものでもない。ましてや全国各消防機関で地域性はもちろんのこと、期待されている役割(守備範囲)も微妙に異なるうえに、さらには予算も規模も違うわけである。でも、それは「消防機関」という1つのフィールドでさえも、多数のパターンがありその分だけ方法も答えも違うということである。これらをまとめて、課題や奏功例をこの世に明らかにすることだけでも、「学問」を語る上で十分な内容ではないだろうか。我々の学問とは、何も医学的な面や特定行為に関することだけではないであろうし、救急救命士が日々の勤務や暮らしの中で生まれる疑問や課題を「気付き」として、まずは始めること、具体的に動き出すことが肝要であろう。その第一歩を踏み出すには「どうしたらいいのか」、「どのように進めたらよいか不安だ」などあれば、是非とも本学会を上手く使ってほしいと願う。また、より手軽な方法として本学会監修の書籍が販売されている。それらを参考にしてみたいかがだろうか。

私は、今回の講演で重ねるように「職能団体」を目指すことが、本学会の主たる目的ではないと申し上げた。今でもそのことに何ら偽りはない。我が国における消防機関に「団結権」が認められていないことは周知のとおりである。しかし、あえてここで誤解を恐れずに申しあげたい。我々、救急救命士が自らの資格の在り方やこの職務のことを、自分達で考えて将来どのように国民から期待され続ける資格であるのかを議論

したり、研究することも「団結権」に包含されるのだろうか。これを考えることは、賃金交渉や処置拡大に向けての圧力団体へと直結していくのだろうか。さらには同じ救急医療分野に精通した医師や看護師などの医療職種に救急救命士や救急隊員の未来をデザインしてもらわなければならないのだろうか、消防機関の救急業務について医療機関に勤務する救急救命士に考えてもらわなければならないのだろうか、総務省消防庁や厚生労働省の役人に考えてもらわなければならないのだろうか。私は元消防職員として、今や私立大学に勤務する者として、それぞれの勤務先によってできること、できないことがあることは十分に認識したうえで、近い将来、いや、喫緊で、「救急救命士」が「救急救命士」の未来を真剣に議論して結果を導くことが求められていると考える。

1991(平成3)年に産声をあげた、医療職種の中では「まだまだひよっこ」かもしれない救急救命士だが、もう2023(令和5)年である。30年以上が経過している。我々が様々な災害や困難を乗り越えて、蓄積してきたノウハウや制度の問題や課題を明らかにして、どう次世代に活かしていくのか、将来、救急救命士を目指す若者達に同じ苦労や悔しさを経験させないためにどう改善がなされ研究されているのかを世にしっかりと示していくことが、私は「救急救命士のプロフェッショナルオートノミー」ではないのかと思っている。「救急救命士が救急救命士を育てる」これが職種に関係なく当たり前なことになってほしいと切に願っている。

コロナ禍でしばらく我々は膝を突き合わせて話すことを避けなければならなかった。救急救命士仲間や同期と久しぶりに熱い語らいの場が徐々に戻ってくることを大いに願いながら、その場に本学会学術集会の場はいかがだろうか。地域や職種の違いからもたくさんの知見を得たはずである。学術集会の場はもちろん、その後のオフの場でも大いに「救急救命士談話」に花を咲かせてほしいと思っている。

救急救命士という職業は、医療の助けが必要な人に対して、最初にその人に携わり必要な医療を提供する職である。しかし、これからの社会はAIが進化し、人間の救急救命士は不要だと言われる時代が来るかもしれない。でも、その時に人間と人間のコミュニケーションの重要性や人間の感情はまだAIにはマネできないはずだ。いや、マネさせないように我々が技術を磨いていくべきだと学生に伝えている。その先生となるのは、大学の教員ではない。日々、それぞれの現場で勤務され長いキャリアをもつ、救急救命士のみなさんではないだろうか。救急救命士が社会からいつまでも必要とされ期待され続ける職種であること、それらに答えるべく蓄積された学問を根拠に日々精進することを本学会はお手伝いしていきたいと思っている。

## 第9回日本救急救命学会学術集会 開催のお知らせ

## 大会名：第9回日本救急救命学会学術集会

会長名：中川 貴仁  
 (弘前医療福祉大学短期大学部救急救命学科 准教授)

日時：2023年10月28日(土)  
 9:00-17:00(予定)

会場：弘前医療福祉大学4号館  
 青森県弘前市扇町二丁目5

テーマ：『救急救命士の「臨床」「教育」「研究」を考える』  
 ～変革の時代に備えるために～

開催：ハイブリッド開催(対面・ウェブ)

演題募集期間 2023/6/1(木)～6/30(金)

## 参加登録期

- ①事前登録期間：2023/9/1(金)-10/20(金)  
 ②通常登録期間：2023/10/21(土)-10/28(土)

## 学会参加費

- |        |     |        |
|--------|-----|--------|
| ①事前登録： | 会員  | 3,000円 |
|        | 非会員 | 5,000円 |
|        | 学生  | 無料     |
| ②通常登録： | 会員  | 5,000円 |
|        | 非会員 | 7,000円 |
|        | 学生  | 1,000円 |

※学生：学生を本業とする(職業を持たない)学生が対象で、社会人学生・大学院生は除く。



弘前医療福祉大学  
 弘前医療福祉大学短期大学部

## ■ 会長挨拶 ■

この度、第9回日本救急救命学会学術集会を2023(令和5)年10月28日に青森県弘前市で開催できることを大変嬉しく思っております。

東北地域での開催は2016(平成28)年第2回大会を福島県郡山市で開催して以来となります。9回目を迎える本学術集会ですが、その始まりは症例検討会からであり、その参加者も10数名であったと記憶しております。その後は、日本臨床救急医学会学術集会開催に併せまして、同会場の一部をお借りしての開催であり、今や定着した学術集会単独開催へと少しずつ少しずつ進んできたところであります。

第9回学術集会のメインテーマを『救急救命士の「臨床」「教育」「研究」を考える～変革の時代に備えるために～』としました。刻一刻と社会情勢が変化している現在において、コロナ禍による医療の在り方も大きく変化しています。2021(令和3)年10月に救急救命士法が改正され、救急救命士にも求められる分野がより高度専門化されていくと考えられます。このような変革の時代に「救急救命士の学問」構築の根幹となる3本柱である「臨床」「教育」「研究」について、各分野で活躍する学会員の皆様をお迎えして学術集会の場で議論したいと思います。

コロナ禍の影響で、幸か不幸か「web開催」「ハイブリット開催」という方法を手に入れることができたことにより多くのメリットを享受してきた我々ではありますが、デメリットも痛感しております。モニター越しで会っていた救急救命士仲間と以前のように対面で語り合う場が失われたことであります。画像も音声も精度が高く何ら不自由はありませんが、相手の話す言葉や仕草に秘められた想いや空気感までは伝わることには難しいでしょう。今回の学術集会は大都市圏での開催ではありません。どうか、「青森県は遠いからweb参加だな」とは言わずに是非ともお越しください。10月の青森県は今シーズンのりんご各品種が出荷される時期でもあります。また、少し足を延ばせば十和田湖や奥入瀬溪流の紅葉が待っております。学術もお仲間との再会も観光も実り多いものとなりますよう最善を尽くす所存です。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



## ●西岡 和男

日本救急救命学会教育研修委員長／評議員

コロナウイルス感染症も落ちついてきた地域もあり、救急講習も再開し始めているという読者もいらっしゃるのではないのでしょうか。受講者の皆さんからすると、このような状況の中で受講を希望する方ですから、応急手当を学ぶ何らかのモチベーションが高い人たちであろうと思います。そういう意味では、教える者としても気合が入るのではないのでしょうか。一方で、まだ、いろんな制約があったりするので、お互いに緊張感もあると思います。ただ、会場に過度な緊張感があると受講者の思考もカチコチになってしまうというのは、どんな講習会でも同じことです。今の時期の講習会では、特に注意したいポイントだと思います。

### ◆受講者の力を信じる

講習内容を端的に受講者に伝えるうえで受講者の力を信じるということは、とても大切なポイントです。指導者の視点として、「受講者は、知らない」という前提で指導している場面がちです。たとえば、今、講習会を開くと、どうしてもCovid19の感染防止対策のことを話さなければならない場面があると思います。でも、あまり細かすぎる説明をしたり、たびたび感染防止の話がでてくるようだと、受講者の意欲にブレーキをかけてしまうことになりかねません。コロナのことだけに限らず、わかってほしいという思いがあると、どうしても説明したくなるが増えるのは人の心情。気づかないうちに、ついついしゃべりすぎてしまっているということは起りがちです。講師自身にとっては、「しっかり説明ができた」という満足があるので、しゃべりすぎていることに気づきづらいのも、ちょっと厄介なところですよ。

端的に会話をするには、自分の話は2割ぐらいにするとよい。と言われたりするのですが、そのさじ加減は、なかなかわかりにくいように思います。そこで、受講者だって知っていることがある、という受講者の力を信じて講習を進めるようにすると、しゃべりすぎることが自然と少なくなります。では、その受講者の力はどのように見極めたらよいのでしょうか。

### ◆社会は、成長するもの

皆さんの中でも、昭和50年代の市民が、応急手当をどのように理解していたのかを知っている人は少ないかもしれませんね。昔話になってしまいますが、当時は蘇生法ということそのものが、あまり知られていませんでした。そのような状況でしたから、講習会では、心臓が止まった人を助ける方法があるのですよ。ということから始める必要がありました。そのうえで、なぜ必要なのかという理由や実際の方法など、教科書どおりの順に説明してゆくプログラムである必要がありました。今の時代が当時と大きく違っていることは、今日では、心臓が止まったら胸を押すことが大事だということを、国民の多くの人が知っているということです。つまり、応急手当の知識が広まるに当たって、受講者がどのようなポイントを学びたいかということも時代とともに変わっているのです。

### ◆市民AEDの理解

学びの力の変化は、AEDを取り巻く市民の理解でも同じことが起こっています。一般市民がAEDを利用できる時代が訪れたとき、AEDは医療従事者の間では常

識になっていましたが、一般市民の間で知っている人はわずかでした。そのため、講習では、まずAEDを市民に知ってもらうということに時間を使う必要がありました。講習では「AEDって知ってますか？日本語で自動体外式除細動器と言って・・・」など、かなりの時間をかけて説明をしていたと思います。しかし今では、多くの人がいざという時の電気ショックの機械があることを知っています。市民の力を信じるならば、「(ご存じの方も多いので)音声ガイドのとおりにやってみるとできるので、ちょっと使ってみましょう。」というところから始めることも可能になります。言い換えると、現在の受講者は、最初の頃のAED講習の進め方より、もっと効率的な学び方ができる市民に成長しているということなのです。

### ◆受講者の力を信じるメリット

集まった受講者の間には知識の差があるので、そこは気をつけなければいけません。受講者の力を信じて、講習の効率を上げることができるというメリットがあります。さらに、あなたの力を信じているという講師の姿勢や雰囲気は、受講者に講習へ参加した達成感をより大きく感じさせる要因にもなります。なぜなら受講者は、講習の中で「難しいなあ」と思ってしまう場面が必ずといってあるものです。特に実技の場面では、命にかかわることなので間違っただけではいけない、示された手本と同じようにしなくてはならないという思いに駆られている人も少なくありません。受講者は、これまで見聞きした経験やお手本を思いめぐらせながら懸命に実技にチャレンジしています。そんな受講者に、良かれと思って、手取り足取り声をかけたり「あ、そこはこうしましょう」と指摘したりしていることってありませんか。講師としては受講者の手助けをしていると思っていても、自分でできていたこともあったのに、そこから先は指導者の手助けがないとできない。という気持ちにさせてしまいます。一方で、受講者に多少失敗や戸惑いがあったとしても、受講者の頑張りや信じて見守り、自分にでもできるんだなあ、と感じられるように受講者ができていることを伝えて、そのあとに「こうしたらもっと良くなる」というように補足するように進めることで、自分でもできるという達成感を感じてもらい指導が変わります。

### ◆チャレンジしてみることから講習も変わる

実技を始めた受講者から、講師のあなたに助けを求めるような困惑の眼差しを向けられたら、すぐに答えを出してあげたいものです。でも、自分でできることに気づく、自分で解決することができるという経験を得てもらうためには、講師自身が相手の力を信じて、まずは自分の力でやってみてもらい、そこから受講者と一緒に、その人にとって最良のGOALへたどり着く、そんなチャレンジをすることは、あなた自身にも新しい発見があり、あなたが作る新しい講習スタイルへの扉を開くきっかけになります。

次回からは、講習へ出かけるところから、講習に入ってゆきたいと思います。お楽しみに。

ご意見ご感想をお待ちしています。

teate.inst@gmail.com

## 救急救命士ジャーナル 第8号のお知らせ

日本救急救命学会準機関誌「救急救命士ジャーナル」第8号のお知らせです。今号も皆様が興味をもっていただける特集や記事を精力的に掲載いたしました。当面、学会員には無料配布を予定しております。是非とも、この機会にご入会くださいましてジャーナルをその手に取って頂きたいと思っております。会員皆様からの論文も随時受け付けております。掲載される論文の質と学会誌としての信頼性を保つよう、査読者による査読システムを採用しております。これまで投稿先がなく、半ばあきらめていた救急救命士の方々も胸を張って投稿いただけます。詳しくは救急救命士ジャーナル投稿規定、またはオフィシャルサイトをご覧ください。

一般社団法人  
日本救急救命学会準機関誌  
Journal for Emergency Life-Saving Technician

救急救命士が作る  
救急救命士のための



# 救急救命士 ジャーナル

年4回発行  
編集発行人/佐藤枢 発行所/株式会社へるす出版

## 第8号の目次 (予定)

- ◆特集：救急救命士 最前線 学生座談会
- ◆進取果敢；全国各地、新たな取り組みを紹介！  
今回はビデオ119について特集します
- ◆救急救命士図鑑；いろんな救急救命士をピックアップ 消防で働く女性救急救命士
- ◆シリーズ 医療機関に勤務する救急救命士
- ◆巨人の肩の上に立つ；救急救命士が読み解く  
海外の最新論文

- ◆経験伝承；緊急走行
- ◆外傷病院前救護の現状 from JPTEC；SMRに関する  
観察・手技に関する文献的検討
- ◆学会員の声 テーマは「初めて行った研究」
- ◆投稿論文

2023年3月20日発行 定価1,650円（本体1,500円+税）  
へるす出版のサイトからご購入いただけます

## 救急救命士ジャーナル投稿論文を振り返る

救急救命士ジャーナル第7号には投稿論文「北野信之介ら：救急救命士学生らによる間接血圧測定法の聴診法と触診法の正確性」が掲載されました。内容は次のとおりです。

---\*---\*---

救急救命士の学生316名を被験者として、シミュレーターを使って触診と聴診で血圧測定を行い、仰臥位と坐位の場合を評価し、収縮期血圧における設定値と測定値の差を比較検討した。

仰臥位の聴診法-7±16mmHg、触診法-11±16mmHg、坐位の聴診法-4±13mmHg、触診法-12±12mmHgで、いずれも設定値より低くなった。

シミュレーターから得たデータにより、臨床においても実際の血圧より若干低値を示す現象を留意したうえで重症度、緊急度、活動方針の判断をすべきである。

---\*---\*---

血圧測定に関する研究はネットで検索するだけでも相当な数がヒットします。それだけに、臨床においては基本的なバイタルサインであり、測定するテクニカルな部分をとっても、奥の深い分野だと言えます。救急救命士が世に出てすぐ、研究や学会発表で血圧に関する事項が多かった記憶があります。騒々しい救急車

内では傷病者の血圧は上昇傾向にあるとか、触診法は聴診法より低めの値になるといった結果がよく取り沙汰されました。しかし、当時の統計処理は単なる分類と平均値が関の山でした。「統計学的有意差はあるのか?」「せめてカイ二乗検定くらいしたらどうか」といったフロアからの指摘に、演者がタジタジ（もしくは???が乱舞）になるシーンが脳裏に焼き付いています。私自身もその人であったことは間違いありません。今回、読ませてもらった論文では、カイ二乗検定、t検定、Turkey検定が用いられていました。まさに当時、駆け出しの救急救命士が、研究や発表をするなら勉強すべきだと、ご指摘を受けた内容そのものですね。パソコンがこれだけ普及して、中にはフリーの統計ソフトも登場するなど、当時の環境とは大きく違う部分もあります。そういった背景もあって、これだけ浸透してきたんですね。検定によって出された結果が正しいのではなく、p値だけがすべての時代は終わったと言われそうですが、注目してくれた研究者たちを納得させるには必要な手順であり、研究における大切なスパイスであることは間違いありません。

(T.Ichiryu)

## 救急救命士ジャーナル投稿規定

### 1. 名称

名称は、救急救命士ジャーナルとし、本誌の英文名は「Journal for Emergency Life-Saving Technician」とする。

### 2. 目的

本誌は日本救急救命学会の準機関誌であり、救急救命学の進歩と発展に寄与することを目的とする。

### 3. 投稿資格

- 1) 筆頭著者は本学会の会員に限る。ただし、編集委員会が寄稿を依頼した場合は、その限りではない。著者の人数は10名以内とする。
- 2) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」に必要事項を記入して添付すること。

### 4. 論文の受付

論文の受付には以下の要綱を満たす必要がある。

- 1) 著者の人数が10名以内である。
- 2) 8. 文章執筆要領に則した記述である。
- 3) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」及び、申告するCOIがある場合はCOI 申告書を提出している。

### 5. 論文の採否

投稿論文の採否は編集委員を含む3名で査読後、編集委員会の審査によって決定し、採用となった場合はその日をもって受理年月日とする。

### 6. 投稿内容

- 1) 本誌への掲載は救急救命士及び救急救命の領域の論文とする。
- 2) 論文は国内で未発表のものに限り、二重投稿は禁止する。ただし、海外で日本語以外の言語で発表した論文を日本語で記載しなおした場合は二重投稿とはみなさないが、著作権の保有者に使用許諾を得ていること、及びその場合の論文カテゴリは、「資料」とし最初の論文の掲載誌を明記する。

### 7. 投稿論文の種類

論文の種類は、総説、原著、調査・報告、症例・事例報告、資料・その他とする。

#### 1) 総説

多面的に国内外の知見を集め、文献調査に基づき、総合的に学問的状况を分析・概説し、考察したもの。

#### 2) 原著

論文の体裁(目的・対象と方法・結果・考察)が整っており、研究内容に新規性、独創性があり、方法の信頼性、妥当性が高く、その知見が論理的に示されており、学術的価値の高いもの。

#### 3) 調査・報告

独自に行った調査等の結果をまとめ、報告並びに解説したもの。

#### 4) 症例・事例報告

単独または複数の症例や事例をまとめ、考察を加えたもの。

#### 5) 資料・その他

編集委員会が適当と認めたもの。

### 8. 文章執筆要領

- 1) 原稿はパソコンの文書作成ソフト（Microsoft® wordなど）にて作成し、A4判横書きで、40字×30行で行ページ設定する。
- 2) 現代仮名遣いに従い、医学用語を除き常用漢字を用いる。
- 3) 度量衡の単位はCGS単位を用いる。
- 4) 統計処理を行った時は、統計学的検定法を明記する。
- 5) しばしば繰り返される語は略語を用いてよいが、初出の時は完全な用語を用い、以下に略語を使用することを明記する。(例)心肺停止 (cardiopulmonary arrest、以下CPAと略す)
- 6) 図、表、写真の引用は該当文章の末尾とする。
- 7) 原著の本文は、はじめに、目的、方法、結果、考察、結論の順位に記述する。
- 8) 症例・事例報告の本文は、はじめに、症例、考察、(結論)の順に記述する。
- 9) 論文の本文には頁数を付す。
- 10) ランニングタイトルは20字以内とする。

### 9. 和文要旨

400字以内の和文要旨をつける。

### 10. 索引用語

原則として日本語とし、総説、原著、調査・報告は5個以内とする。索引から目的の論文を確実に検索できるようなものを選択する。

### 11. 字数制限

原稿は本文、図表、写真、文献を含めて12,000字以内とする。図、表、写真は縦5cm×横7cmに縮小印刷が可能なもの1点を400字相当と換算する。

### 12. 図、表、写真

- 1) 図、表、写真には図1、表1、写真1などそれぞれに通し番号をつけ、日本語でタイトルを表記する。
- 2) 写真は解像度が高いものが望ましい。
- 3) 本文内に図、表、写真、の挿入箇所を示したうえで、用紙1枚に1点とし、「図、表、写真番号、」「タイトル」「説明文」を記載する。
- 4) 元データがある場合は提出する。
- 5) 図、表、写真等を引用・転載する場合は、著者自身が著作権者の了解を得た上で、出所を明記する。
- 6) 図表は原則としてモノクロとする。カラーでの掲載を希望する場合はカラー掲載料を著者が負担する。

## 救急救命士ジャーナル投稿規定

## 13. 文献

- 1) 文献は本文中に上肩付した引用番号順に配列し、20編程度とする。
- 2) 著者は筆頭著者から3名までは明記し、それ以上は「他」または「et al」とする。
- 3) 雑誌名略記は医学中央雑誌刊行会・医学中央雑誌収載誌目録略名表及びIndex Medicusに準ずる。

## 4) 文献記載例

<雑誌>

引用番号) 著者名: 題名, 雑誌名 発行西暦年;  
巻: 頁-頁.

- 1) 片山祐介, 北村哲久, 清原康介, 他: 救急電話相談での緊急度判定で緊急度が低かった救急車出動事例の検討. 日臨救急医学会誌 2018; 21: 697-703.

- 2) Kinoshi T, Tanaka S, Sagisaka R, et al: Mobile Automated External Defibrillator Response System during Road Races. N Engl J Med 2018; 379: 488-489.

<単行本>

引用番号) 著者名: 分担項目題名, 編者名, 書名.  
(巻). (版). 発行所, 発行地, 西暦年, p頁-頁.

- 1) 鶴飼卓: 阪神・淡路大震災. 鶴飼卓他編. 事例から学ぶ災害医療. 南江堂, 東京, 1995, pp35-48.

<WEB サイト>

引用番号) サイト機関: ページ名.(改行)URL(最終アクセス日: yy.mm.dd)

- 1) 総務省消防庁:平成30年度版救急救助の現況.  
<https://www.fdma.go.jp/publication/rescue/post7.html>(アクセス日: 2020.1.26)

## 14. 倫理規定

- 1) 投稿論文のなかで、臨床に関わるものにおいては、傷病者や被験者ならびに特定の個人の人権を損なうことのないよう、必要に応じて倫理委員会による審査を得るなどして、十分配慮されたものでなければならない。

- 2) 個人が特定される年月日などの記載は臨床経過を知るうえでの必要最小限にとどめ、プライバシー保護に留意すること。

- 3) 実験動物に関わるものにおいては、動物愛護の面に十分配慮されたものでなければならず、必要に応じてその旨を記載する。

## 15. COI (利益相反) の開示

全著者の投稿内容に関連する企業や営利を目的とした団体からの資金援助等の利益相反関係を開示しなければならない。

## 16. 校正

掲載直前の最終校正は著者校正とするが、その際、大幅な追加、削除は認めない。

## 17. 別刷り

- 1) 発注は10部単位とし、製作費の実費を支払う。
- 2) 注文は著者校正時に行う。
- 3) 料金の支払いをもって発注完了とし、発注完了後1か月を目途に納品する。

## 18. 論文の著作権

本誌に掲載された著作物の著作権は、著者と日本救急救命学会の両者が保持するものとする。

## 19. 原稿の投稿方法

- 1) 論文投稿は電子媒体のみ受け付ける。
- 2) 著者は、図表入り完成原稿、図表ファイル(PDF形式以外)、誓約書(書式A)を本学会事務局に電子メールによって送付する。
- 3) COIの申告がある場合には、「投稿時COI(利益相反)申告書」(書式B)を合わせて送付する。
- 4) 著者は査読結果が通知された後、論文に修正が必要な場合は、1ヶ月以内に修正した論文、および査読コメントの回答文を返信する。
- 5) 著者は採択後の校正作業を1ヶ月以内に行う。



学会オフィシャルサイトでは以下のドキュメントをダウンロードいただけます

日本救急救命学会  
オフィシャルサイト  
<https://www.jsels.com>



## 【誓約書・COI申告様式】

誓約書、および申告するCOIがある場合はCOI申告書をご記入ください。

## 【投稿論文の査読に関するループブリック】

査読者は投稿論文に対してこのループブリックの評価項目を元にして査読を行います。

## 【論文投稿の流れ】

論文を投稿された際の採択までの流れを示した資料です。ご参考にしてください。



救急現場ならではの、救急隊員ならではのコミュニケーション技法を現場経験豊富な執筆者らが解説。これまでの救急隊員教育にはなかった、救急隊員自らが考える救急現場活動の基礎となります。実際の救急現場を意識した内容となっており、救急活動において共感の得られるポイントを重視しています。

ケーススタディ、サイドストーリーではイラストを盛り込み、いくつかの「あるある」を提示しています。消防学校や救急救命士養成所などの初学者への入門書として、救急救命士や指導救命士らベテランの方たちには後進の指導教材として、ご活用いただけます。

—目次—

第1章 相手を感じる救急隊員の第一印象

救急隊員の身だしなみ

リスクになる救急隊員の身だしなみを考えてみよう

第2章 救急現場で遭遇する人たちとの

コミュニケーション

—ケーススタディ—

Episode 0 吉井くん ほろにが隊長デビュー

Episode I 超軽症？ 不搬送時のフォロー

Episode II 興奮する家族とのコミュニケーション

Episode III 加齢性難聴の傷病者との

コミュニケーション

Episode IV 超緊急！ 強気な態度を使いこなせ

Episode V 搬送拒否を主張する見過ごせない傷病者

Episode final 吉井隊長の夜明け

第3章 アプローチの基本

救急隊はグループではなくチーム

入電情報に基づく隊員間の段取り

現場に必要なアプローチの肝

第4章 医療者とのコミュニケーション

病院連絡は難しくない

医療機関での引き継ぎ

第5章 大切なアフターコミュニケーション

応急手当を実施した人との

アフターコミュニケーション

引き継ぎ医師とのアフターコミュニケーション

傷病者や関係者とのアフターコミュニケーション

救急隊のアフターコミュニケーション

「有終の美」～未来の自分への糧～

Episode side story

1 日本語って難しい

2 微妙なお年頃

3 お母さん黙って…

4 女性を見る目はもともとない

5 加齢と語彙力

定価：1,320円（税込）

監修：一般社団法人日本救急救命学会

著：一柳保、竹田豊、西岡和男、吉井友和、脇田佳典

第1版・A5判・72ページ・並製

発行年月：2022年7月

ISBN 978-4-86719-045-6



編集後記

長きにわたって戦ってきたCOVID-19も5類感染症への引き下げにより、一定の着地点が見えてきたようです。名称も「コロナウイルス感染症2019」というような案が検討されています。マスクの使用も段階的に緩和され、それぞれのコミュニティや個々の判断に委ねられるようになってきました。今年の3月は春の訪れとともにマスクを外して暖かな空気をいっぱい吸えるのではないのでしょうか。▶3月と言えば、救急救命士の国家試験が実施されます。第46回を数える試験ですが、実は平成17年度までは、年2回（3月と9月）行われていたのをご存じでしょうか。消防職員が半年の研修を経て受験する場合は、この年2回というペースは非常に都合がよく、少し大きな消防本部なら前後期で複数名の新規救急救命士を誕生させることができました。▶春になれば、学校であったり、職場であったり、新しい仲間との出会いがあります。うちの職場にも新人がやってきます。中には、今月、救急救命士の試験を受けて、救急救命士資格取得見込みの人もいます。昔は合格発表は5月ごろの通知でしたが、今は3月末にネット上で確認できるようです。せっかく、一生懸命勉強したんですから、受験生みんなが合格できることを願っています。4月にはマスクを外して、晴れ晴れとしたスマイル顔で出勤できますように。

(T.Ichiryu)